

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2024(令和6)年 3月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

春の彼岸会法要のご案内

三月十四日（木）

昼一時半

講師

宇部市 蓮光寺住職

伊東順浩 師



「彼岸」とは文字通り「彼岸」という意味です。私達が生きている世界を「此岸（このきし）」というのに対し、覚りの世界・阿弥陀様のお浄土をあらわします。

お浄土は、「西方浄土」ともいわれます。それは、西に行けばお浄土があるからではありません。「西」とは太陽の沈む方向、すなわちのちが帰ってゆく世界を、象徴的に表しているのです。

私たちは、どこに向かって生きていくのでしょうか。そして、どこへ帰っていくのでしょうか。目の前のことで精一杯の現代社会は、そんなことを考えることもありません。こんな時代だからこそ、私たちの人生の行く末を見つめさせていただく縁として、この『彼岸会法要』は、とても大切な意味があると思います。どうぞ、お誘いあわせお参りください。

彼岸会に
合わせて

極楽寺ギャラリー

開催します！

詳しくは、本号最終面をご覧ください

「pāramitā（パラムिता）」とは、インドのサンスクリット語で、「到彼岸」（覚りの世界に到る）をあらわします。



コラボ企画



ピンチです！ヤバい状況です。

今年の一月に勤めました御正忌報恩講では、四年ぶりにお齋を復活しました。台所のお手伝いの負担を考え、今回からお昼だけに時間を限定したのですが、何と席に着かれたのは僅かな方々…。お参り自体も減少傾向にはありますが、「お昼は食べてきました」とおっしゃる方も多くあり、とても残念でした。このままでは、お齋文化がなくなってしまうのです。これは、かなりヤバい状況だと危機感を持っているのです。お齋とは、法事や法要など、仏事の際の食事のことを表します。元々は修行僧が決められた時間にとる食事のことでしたが、後に今の意味に変わりました。但し、単に「お寺で食べる食事」ではありません。お齋には、もっと大切な意味があるのです。特に、現代社会が失っているものを、浮き彫りにし、大切なことを確認するものとして、重要な役割を持っていると私は考えています。では、

お齋のチカラ

その役割とは何か。共に考えてみたいと思います。

① つながりを実感する場

【共に食す場として】

お齋の場は、人々が食を共にするという「共食」の場です。食文化研究者である石毛直道氏は「人が人たる根本の特徴の一つが共食である」と述べておられます。「同じ釜の飯を食った仲間」という言葉



があります。私たちが人間は「同じものを、共に食す」ことで、つながりを深めてきました。また、供えられたものを食すことで、信仰対象（神様や仏様）とつながりを深めるという儀礼は、世界中の宗教において重要な意味を持っています。「お寺で、共に、食す」ことは、私たちが思っている以上に、



重要なはたらきがあるのです。

【持ち寄ったものを食す】

お齋は、昔から持ち寄ったもので作られていました。昔は、日ごろお寺にお供えされたお仏飯米や、ご門徒が持ち寄られた食材によるものだったのです。今回のお齋の大根も、ご門徒が育てられたもの。お齋とは、みんなで持ち寄り、みんなに分け合う場なのです。ですから、お齋料を包む習慣は、食事への対価ではありません。持ち寄りの志なのです。

本来、料理を分け合う行為は、共同生活をおくる人間の特徴であり、信頼関係を深める手段でした。ところが、便利さ快適さを求める現代社会では、自分の好きなものを、自分の好きなように、好きなだけ食べることが当たり前となり、人のつながりがどんどん希薄になっていきます。それどころか、いのちをいただいているという感覚さえも、薄くなっています。動物も自然も、人間さえも商品化している時代ですから。

【語り合う場として】

現在の本願寺の基礎を築かれた、室町時代の蓮如上人

OSHIE NO KAKERU

という方は、常々「物をいえ」「信不信、ともに、ただ、物をいえ」「蓮如上人間書」とおっしゃっておられたそうです。仏法の味わいを、語り合うことで深め、自分勝手な受け止めを改めていく。そのためにも平座となり、上下なく語り合うことを薦められました。お齋の場は、そんな仏法を語り合う場として、重要なはたらきをしていたのです。

だからこそ、人間本来の有り様を、いのちのつながりを、お寺のお齋という場を通して取り戻していかねばと思うのです。私たちの先輩方が、共に持ち寄り、共に食し、共に語り合うことで、人と人とのつながり、自然とのつながり、阿弥陀様とのつながりを確認してきたように。

② つつしみを確認する場

「齋」の文字には「つつしむ」の意味があります。「つつしむ」とは、過ちや軽はずみな行為のないように気をつけること



であり、度を過ぎさないよう控えぬにすること。つまり、自分の節度を守るためにブレーキをかけるような行為でしょう。ところが、現代社会に生きる私たちは、「つつしむ」ことを忘れてはいないでしょうか。

本願寺の大谷嬉子前々御裏方は、「おとぎのころ」を次のように示されています。

「私ども、浄土真宗のみ教えを いただく者は、厳しい戒律に生きるということはありませんが、毎月の宗祖聖人のご命日をはじめとして報恩講のご法要の折、また永代経法要の時、お精進をする習慣になっています。／常々どうしても殺生をせずには生きられない私を、あらためて振り返れば、そのようなわたしであるからこそ、み仏さまのご本願に救われる身であることを、聖人を、また親しい故人を偲びながら、喜ぶことができると思います。また、／遠い祖先と、同じ念仏に生きていくという念いを深めることができるであります。そして、そのお齋が継承されて、また未来を生きるであろう子孫にも、その念いが伝わってほしいと思います」(『慈光のなかで』)

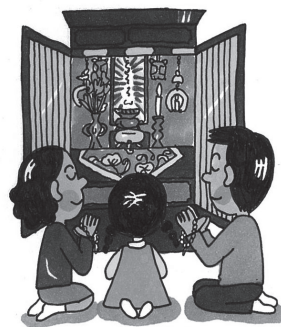
殺生をせずには生きられない、自分自身の姿と向き合う。↘

OSHI NO KAKERA

そんな私を思い、はたらいてくださいっている阿弥陀様がおられることの有難さを念う。そして、共に阿弥陀様の温もりの中にある、亡き人たちの歴史に出会っていく。

忙しく慌ただしい時代だからこそ、せめて御正忌くらい、精進料理であるお齋をいただく。お齋の場を「つつしみ」を確認するご縁とし、ブレーキを

かけ立ち止まり、自分自身を振り返る。それは、現代社会が失ったとても大きなものに、出会い直すことになるのです。



③ 私が待ち望まれていることを感じる場

どんなにお齋を準備しても、食べてくださる方がなかったら、それは無駄になってしまいます。それは料理だけではなく、準備された方々の思いもはたらきも無駄になるのです。しかし、それを逆から考えると、お齋の席に着く方が増えるほど、準備する側の喜びも大きくなるといえるでしょう。

つまり、私ができることを、待ち望み、喜んでくださる方へ

がある。そして私が、お齋を食べることで、笑顔になる人がいるということなのです。私が一步を踏み出すことで、そこに温もりと喜びが生まれる。これって、とても嬉しいことではないですか。この喜びは、人間にとって存在に関わるほどの重要なものではないかと思うのです。なぜなら、これまた逆から考えてみてください。「あなたなんか、来て欲しくない」「あなたには、ここに居場所はない」と言われたとしたら…。これは、自分の存在を否定されるほど、つらいことではないでしょうか。

私たちは、お寺という場から待ち望まれているのです。それは、お齋の準備をされる方々だけではありません。阿弥陀様から、親鸞聖人から、そして私たちの先祖や先達から、私がお寺に参り、手を合わせ、お齋をいただくことを、待ち望まれているのです。

そんな豊かで大きな世界の中に、今私が生かされていることを実感する場として、お齋はとても重要なものだと思います。 ↓



OSHAIE NO KAKERA

以上、お齋の持つ重要な役割を、確認してきました。この大切な心を伝えるお齋という文化を、共に支えていただきました、強く願っている次第です。私たちに届けられたこの歩みと歴史を、次の世代に伝えるためにも、どうかお力をお貸しください。 ■

※参考文献『真宗大谷派寺院におけるお齋の現状と考察』金胎芳子



今年の御正忌で、お齋のお手伝いをしてくださった皆さん。

「お斎のチカラ」まとめ

- ① お斎は、つながり（人、いのち、阿弥陀様、そして過去と未来）を実感する場です。
- ② お斎は、つつしみを確認し、自分を振り返る場です。
- ③ お斎は、私が待ち望まれていることを感じる場です。

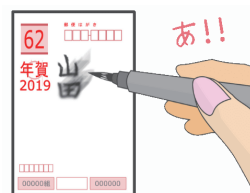


物でお布施

mono de OFUSE

家庭で眠っている物を、活かしませんか

書き損じはがき・未使用切手 CD・DVD
未使用テレフォンカード ゲームソフト・ゲーム機器
商品券・ビール券など金券・未使用タオル



仏教の精神にもとづき活動するNPO法人『アーユス仏教国際協力ネットワーク』に送り、海外の難民支援や国内災害の被災者支援に使わせていただきます。



プルトップも、集めています！

本堂に設置してある回収箱に、お入れください。

ざしょうきほうおんこう 御正忌報恩講

無事、お勤めすることができました



ここ三年間、コロナ禍のため日程を変更して勤めていました「御正忌報恩講」。

今年は、親鸞聖人のご命日である一月十六日に合わせて、お勤めすることができました。

中止していたお花立・お盛物も、四年ぶりに再開することができ、嬉しく思っています。

コロナ禍をきっかけに、色んなものが失われようとしています。「大変だから」「手間がかかるから」「時代に合わないから」と簡略化され、捨てられていくものがたくさんあります。それで、面倒くさい作業は減り、楽をすることはできます。でも同時に、失ってしまう大切なものもあるのではないのでしょうか。

続けていくことは大変ですが、持続可能な方法を探りながら、これからも大切に勤めていきたいと思っています。出来る限り…。

はなたて
お花立・お盛物
もりもの
四年ぶりに、再開しました！



お餅つきも、復活！です。



お花立・お盛物 お手伝いの皆さん

ほっちやテレビ（長門市ケーブルテレビ）の「地域探訪」で、お花立・お盛物の様子が紹介されました。



古い仏具 使わないお線香

お寺へお持ちください 本堂に回収箱を設置してあります。

月々の言葉

Monthly Words



苦しいのは
自分を中心に
しているからだ



極楽寺掲示伝道

2月の言葉

仏教では、「人生は苦である」と説きます。なぜなら、人生は思い通りにならないから。

その代表的なものとして語られるのが、四苦といわれる「生老病死」です。私たちは、生まれも選べないし、必ず老いねばなりません。病気にもなるし、いずれは死ななくてはならない。いつまでも、若く健康で、長生きしたくても、そうはいかない。そんな思い通りにならない現実を抱えている。にもかかわず、思い通りにしたいと考えるから、苦しみが生まれる。つまり仏教では、自分の思いが自分を苦しめることを、そして自分の思いが強いほど、苦しみもまた強くなることを指摘しているのです。

ところが私たちの社会は、様々な研究・開発を重ね、「思い通りになる」世界を作ろうと試みてきました。そして便利で

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

快適な世の中になり、思い通りになることも増えました。しかし、苦しみは減ったかという点、どうなのでしょう。もちろん減った苦はありますが、新たな苦もまた生まれているのではないのでしょうか。私たちが満たそうとしている「思い」って、何なのでしょう。目の前の快楽ばかりを求めているのではないのでしょうか。

仏教には、「天界」という世界が説かれています。源信和尚という方が書かれた『往生要集』には、「天界は快楽（仏教では「けらく」と読みます）が極まりない」とあります。さぞ良いところかと思いきや、そこは迷いの世界なのです。そして天界では、その命が尽きる時に「地獄の苦しみなどその十六分の一にも及ばない」ほどの大苦惱を生じると書かれています。私たちが求める理想のような世界なのに、これは一体どうしたことなのでしょう。



考えてみれば、昔は一日中開いている店なんてありませんでした。今では、ちよつとした都会なら二〇〇メートルおきぐらいにコンビニがあり、二十四時間年中無休で営業していま

す。インターネットも普及し、スマホもあつて、便利で快適で、たくさんのお楽しみが囲まれて。これほどのサービスが日本全国行き渡っている状況は、過去の時代にもありませんでした。現代の私たちの生活水準、便利さは、かつての王侯貴族と変わらないか、それ以上だと言う人もいます。まさに私たちは、昔の人から比べれば、天界のような生活をしているのです。にも関わらず、みんな幸せに暮らしているかという点、どうもそうではないので。それどころか、「昔は良かった」という人さえいます。なぜなのか。

一つには、どれほどのモノやサービスに囲まれても、私たちは慣れてくると当たり前前に感じ、喜びも感動もなくなるからだとと言えるでしょう。そして「便利で快適」の基準が上がるほどに、不快な思いに耐えられなくなる。小さな物音を騒音と思ひ、少しの汚れが不潔に感じる。大らかさは失われ、被害者意識ばかりが強まって、クレームと愚痴ばかり。不寛容で殺伐とした時代になりました。

そしてもう一つは、失うことへの不安ではないでしょうか。私たちは、手に入れたものが大きいほど、失うダメージもまた大きいのです。例えば、今私たちの生活から、インターネットやスマホといった通信手段、自家用車や電車といった移動手段

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

段がなくなったら、どうでしょう。「昔は、そんなものはなかったから、生きていくことはできるよ」と言われても、一度手に入れてしまったら、もう失った生活なんて考えられません。生活水準が上がると、当たり前前の基準が上がるほど、失った時のダメージは大きい。そう考えると、快樂が極まりない天界において、失う時の苦しみは地獄の十六倍以上といわれるのも、うなずける話です。

ちなみに、近頃は貧困問題が語られますが、貧困といつても「絶対的貧困」と「相対的貧困」があるといわれます。「絶対的貧困」とは、人間として最低限の生活が満たされない、つまり日常の暮らしに必要なものを手に入れることができない環境にあるということです。それに対して「相対的貧困」とは、



自分の住んでいる国・地域社会で暮らす人々の水準と比較して、大多数よりも貧しい生活を送っている状態を指します。「絶対的貧困」に比べたら「相対的貧困」なんて…と思いきや、そんな甘いものではないようです。当たり前前の基準値が高い社会で「自分だけはそのではない」「取り残されている」と感じる苦しみ、劣等感や不安は、かなり大きな精神

的ダメージがあるということなのでしよう。「贅沢な話だ」という一言では解決できない、深刻な問題なのです。

何より『往生要集』には、「天界は快樂が極まりないが、その命が終わる時には、頭上の華の髪飾りがしぼむなど、五つの衰えの相が現れる。その相が現れるやいなや、今まで親しくしていた天人たちが、遠く離れていってしまう。それはまるで雑草が捨てられるようだ」と説かれています。つまり天界は、衰えると同時に、周囲から見捨てられていく世界でもあるのです。これもまた、現代社会そのままではないですか。健康で無くなったら、お金が無くなったら、役に立たなくなったら…。見捨てられていく不安と恐怖、そのプレッシャーが私たちの社会を覆っている。これが「思い通りになる」世界を作ろうとした結果なのかと思うと、切なさばかりがつのります。

苦しいのは、自分の思いを中心にしていないからなのです。ならば一旦立ち止まり、自分の思い自体を、ものさしそのものを問い直し、点検する必要があるのではないのでしょうか。

冒頭で、思い通りにならない苦しみの代表として、生老病死の「四苦」をご紹介しました。しかしこの「老病死」を、『正法念処経』では「三天使」とも表されています。私たちは、

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

思い通りに事が進む時に、「これでいいんだろうか」と生き方や歩んでいる道を問うことは、あまり考えません。思い通りにならない現実を突き付けられることで、初めて「私の生き方は、これで良かったのか」「私の求めるべきものは、何なのか」という問いが生まれてくる。自分の思いやものさしが揺さぶられ、問い直されるのです。つまり、思い通りにならない「老病死」という現実には、新たな気づきを開いてくださる導きなのだ。まさに私たちは、仏様の世界から呼びかけられているのでしよう。その呼び声を聞き、自分の「思い」を点検し、「こんなにかたよった見方しか、できていなかったのか」「こんな受け止め方もあるのか」と新たなものの見方が広がった人たちがおられるのです。自分を苦しめていた「思い」から解放され、与えられているものの有難さ、支えられていることの頼もしさ、包まれている世界の温かさに目覚めさせられた人たちが、私の前を歩んでくださっているのです。先人の確かな人生に導かれ、私もまた、呼び声に育てられています。



生きるってことは

たくさんの「いのち」と

つながりを

もつことなんだ

極楽寺揚子伝道



3月の言葉

新型コロナウイルスが五類に位置付け変更され、もうすぐ一年が経とうとしています。人の流れもコロナ前に戻ってきましたが、感染症が無くなったわけではありません。それを自覚しながら、上手く付き合っていけるようにしなければと、改めて気を引き締めているところです。

しかし、あつという間の感染拡大でした。中国での発生報告から、二か月くらいでアマゾンのジャングルに住んでいる人が感染したという話も聞きますから、それだけ人や物の動きがグローバルになったということでしょう。インターネットは既に世界を網羅していますし、他国の紛争や企業の経営破綻が、私たちの生活に直接大きな影響を与える時代です。それだけ世界中と、ダイレクトにつながっているのだと実感させられています。

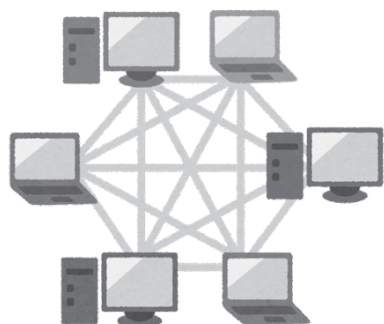
ところが、昔と比べて、人間同士のつながりは確実に薄くな

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

りました。ご近所や地域とのつながりも、親戚付き合いも減りました。正月やお盆には、実家に帰省することが当たり前前の時代もありましたが、今ではそれも少なくなってきました。昔よりも、交通の便は格段に良くなっているはずなのに。山口県の片隅の田舎でも、近頃は近所の人々が亡くなったことさえ、知らされなくなりました。世界はダイレクトにつながっている。けれども、身近な、手触りのあるつながりは、確実に薄れてきている。何かおかしくくないですか。

結局、つながっているのは「利益」「効率」だけなのかもしれない。役に立つもの、お金になるもの、自分にとって都合の良いもの。そのためのつながりばかりが、広がっているように思うのです。

考えてみれば、人間関係って、面倒くさいし、複雑ですからね。効率的にはいかないし、ややこしいし。そういうものより、事務的に処理できる方がタイパ(時間的な効率)もコスパ(費用的な効率)も高い。義理人情は、動き



を鈍^{にぶ}らせる。効率と利益のためにも、人に迷惑をかけられることは避けたい。そんな感覚^{かんかく}が当たり前になつていゝるのではないでしようか。にも関わらず、それが感染症や紛争の影響といつた不利益^{ふりえき}も、効率的に広げてしまつたのは皮肉^{ひにく}な話ですが。

効率と利益ばかりを追いかける世界は、温^{ぬく}もりのない世界です。すべてを数字^{はか}で量り、モノとして扱い、数字の間^{あいだ}にあるものは切り捨てられる。それは、他者を人間として扱^{あつか}わないだけではなく、自分自身を人間として扱^{あつか}わないことにもなるのでしよう。そうして、世界は効率的にながらながらも、私たちの孤立^{こりつ}は深まつていくのではないしうか。

今月の言葉は、四十年以上も前の作文^{いっせつ}の一節です。当時小学六年生だつた少女が、学校行事で農業試験場^{のうぎやうしけんじやう}を訪れて、書いたものだそうです。

「人間は生きるために、にわとりも殺^{ころ}さなくちやいけないし、豚^{ぶた}も殺^{ころ}さなくちやいけない。

生きるつてことは、ずいぶん迷惑^{めいわく}をかけることなんだなあ。

自分で自分のことが全部できたら、

ひとりばつちになつてしまふ。

他人に迷惑^{めいわく}をかけることは、

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

その人とながりをもちつことなんだ。

生きるつてことは、

たくさん^{たくさん}のいのちとながりをもちつことなんだ。

お乳^{お乳}をやつた私に、

温かい体をおしつけてきた子牛^{こぎう}をみて、私は思つた」

(小学校6年生 山崎まどかさん)

日頃食べていた牛肉^{ぎゅうにく}が、こんなに

可愛^{かわい}い牛だつたことに気づいた彼

女は、ショックを受けました。そし

て牛が「モノ」から温^{ぬく}もりある「いの

ち」として、感じられたのです。同時

に、そのいのちを奪^{うば}うことでしか、

私は生きられないという罪深^{つみふか}さも。

彼女の素晴^{すば}らしさは、「このつながりを忘れてはいけない」と

感じたことにあると、私は思ふのです。不利益や不都合だから

と、目を背^{そむ}けない。温もりも罪深^{つみふか}さも、共に「人間が生きる」こと

の事実^{じじつ}なのだという態度に、尊^{とうと}さを感じるのです。

実は、これこそ真実の「つながり」なのでしょう。その「つなが

り」に依^よつて、私という存在^{しんざん}が成り立つていゝる事実^{じじつ}を、仏教では

「縁起^{えんぎ}」と言^いひ表^{あらわ}してきました。その事実^{じじつ}を見失^{みし}う時、私は私を



Monthly Words

禁言知月

見失うのだということも指摘しているのです。

彼女は、「自分で自分のことが全部できたら、ひとりぼっちになつてしまふ」と語っています。四十年以上も前の言葉でありながら、今の時代に生きる、私たちの姿を的確てきかくに表しているようです。自分のことは、ほつといて欲しい。人に迷惑をかけるな。すべては自己責任じこせきにん。そんな態度で、孤立していく社会。「助けて」と言えず、「迷惑をかける私は生きていく資格がない」とまで卑下ひげする人もいます。

でも、人から「迷惑をかけたくない。だから、あなたがいなくても、私は構かまわない」と言われたら、あなたはどう思いますか。ですか。私はそんな言葉よりも「あなたがいてくれて、助かった。有難う」と言われる方が、嬉しいと思うのですが。

嫌いやな思しいをさせられた相手から、「あの件けんについては、もう謝罪しやいしたんだから終わりだ。いつまで、言っているんだ」と言われると、そんなに効率的こうりつてきに片付けかたづけるな！と腹立はらだたしく思しいませんか。「私は、あの件けんについては忘れられない。本当に申し訳しやなかつたと、今でも思っています」と言われた方が、良くないですか。

「生きる」ということは、そんな温もりあるつながりの中で生きていく、いや生かされているということに目覚めめること↓

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

はないでしょうか。

実は、今月の言葉を読んで、若かりし頃に熱中した名作漫画『北斗の拳ほくとけん』のワンシーンを思い出しました。物語のクライマックスで、主人公のケンシロウに対し、兄であり最大のライバルであるラオウは、こう叫びます。

「自らの肉体に傷を負うことに、ひとつ！またひとつ！！」

オレの心の中に巢食すくう情愛じやうあいを消していったのだ！！」

その言葉に対し、ケンシロウはこう語るのです。

「オレはこの傷をひとつ負うことに、心をひとつもらつてきた」と。

出遇であいと別れを通し、心を捨てた男と心を刻きざんだ男。つながりを断ち切った男と、持ち続つづけてきた男。

勝ち負けの結果は別として（モチロン少年マンガですから、主人公が勝つのですが）、生き方としては、心を刻み、つながりを持ち続ける方が、圧倒的に豊かだと思しいます。心を捨て、つながりを断ち切った先にあるのは、たとえ効率よく利益を上げることができたとしても、「孤独」「孤立」「ひとりぼっち」でしかないのですから。■



『北斗の拳』を知らない方には、わかりにくかもしれませんがね。申し訳ありません。



真夜中でも結構です！

身内の方が亡くなられた時には、すぐにお寺へお電話ください。
真夜中でも結構です。

親しい方が亡くなられたら、皆さん動揺されます。これからどうすれば良いのかと、不安になる方も多くあります。

近頃は、葬儀社さんも働き方改革で、夜中に対応する人と実際に葬儀を担当する人と、分けておられるようです。その引継ぎが上手くいかず、行き違いやすれ違いのケースも目にします。遺族の方に、しっかりと寄り添うためにも、住職が間に入ります。どんな時間でも結構です。遠慮なく、ご連絡ください。



仏事、葬儀、納骨…、わからないことや
困ったことがあれば、極楽寺にご相談ください。
ご遠慮なく、どうぞ 0837 (43) 0625

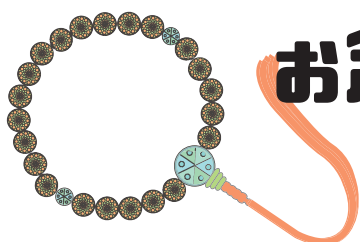
能登半島緊急救援募金

35,069 円

御正忌報恩講で、ご協力いただいた金額です
本願寺を通して、被災地へ送りました

ご協力有り難うございました

これから、ご協力ください
本堂に募金箱を設置しています



お念珠の修理いたします

お念珠のヒモは切れるもの。不吉なことではありません。

お寺で修理いたします。お持ちください。

極楽寺だよりを 送riませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。送り先が増えると、住職はうれしいのです。

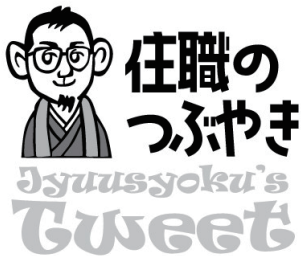
古い仏具 使わないお線香

お寺へお持ちください 本堂に回収箱を設置してあります。



極楽寺ホームページ

極楽寺.comで検索 又は QR コードから



□今年から、長門市の調停委員を拝命しました。調停委員とは、私人間での紛争を解決するために、中立の第三者として仲介し、互いの合意を成立させるための役職です。私なんかか…という思いもありましたが、前住職も勤めていたこともあって、引き受けることにしたのです。精一杯勤めるしかない、身を引き締めております。□しかし、第三者という存在って大切ですね。当事者になると、どうしても視野が狭くなり、感情的になってしまいます。私など、その典型のような人間です。ところがそこに、場を落ち着かせる人がいると、雰囲気は確実に変わります。その場の空気に水を差し、血が上っていた頭をクールダウンさせるような一言で、私はどれほど助けられてきたか。そのまま感情的になっていたら、後々まで引きずる深い傷跡を残しかねなかった。そんなところを、幾度も救っていただきました。そんな良き第三者、が側にいてくださることに深く感謝しています。□でも近頃は、クールダウンさせるどころか、逆に煽り立て、場を荒らし、問題をややこしくする第三者も、数多く見受けられます。そういう人に限って、後々の後片付けなど考えず、正義・正論を振りかざし、目先の感情で吠え立てる。ネットやSNSの書き込み、テレビのコメンテーターの発言なんて、その典型のようなもの。本当に解決する気があるとは思えません。□調停委員という大役をいただくにあたり、良き第三者、となれるよう、気を付けねば。そんなことを思う、今日この頃です。(住職)

次回法座の予定

春の永代経法要 4月16日(火) 17日(水)

講師 柏 宗桜 師 (美祢市 寂定寺住職)

3月4日(木) 正午より
彼岸会に合わせて

入場は無料です

極楽寺ギャラリー

開催します！

テーマは『花』

昨年の彼岸会で開催しました『極楽寺ギャラリー』、今年も久原・香月家のご協力のもと開催することになりました。今年のテーマは、春らしく「花」。花にまつわる絵画を、展示いたします。

アートに親しむことで、感性を磨くご縁にさせていただければと思います。

なんてカッコつけたことを書きましたが、住職もアートに造詣が深いわけはありません。

気楽な気持ちで、ご覧いただければと思います。

駐車場の河津桜
かわづざくら



今年も綺麗です！

毎年、綺麗な花を咲かせて、私たちの目を楽しませてくれる駐車場の河津桜。

今年の冬は暖かかったので、すでに花が咲き始め、見頃になっています。

また、今年はライトアップにチャレンジしています。時間は、夜10時くらいまで。

期間は、盛りを過ぎるまでを目安に考えています。

お花見は、ぜひ極楽寺駐車場へ。

ライトアップやっています！

時間 夜10時くらいまで
期間 盛りを過ぎるまで